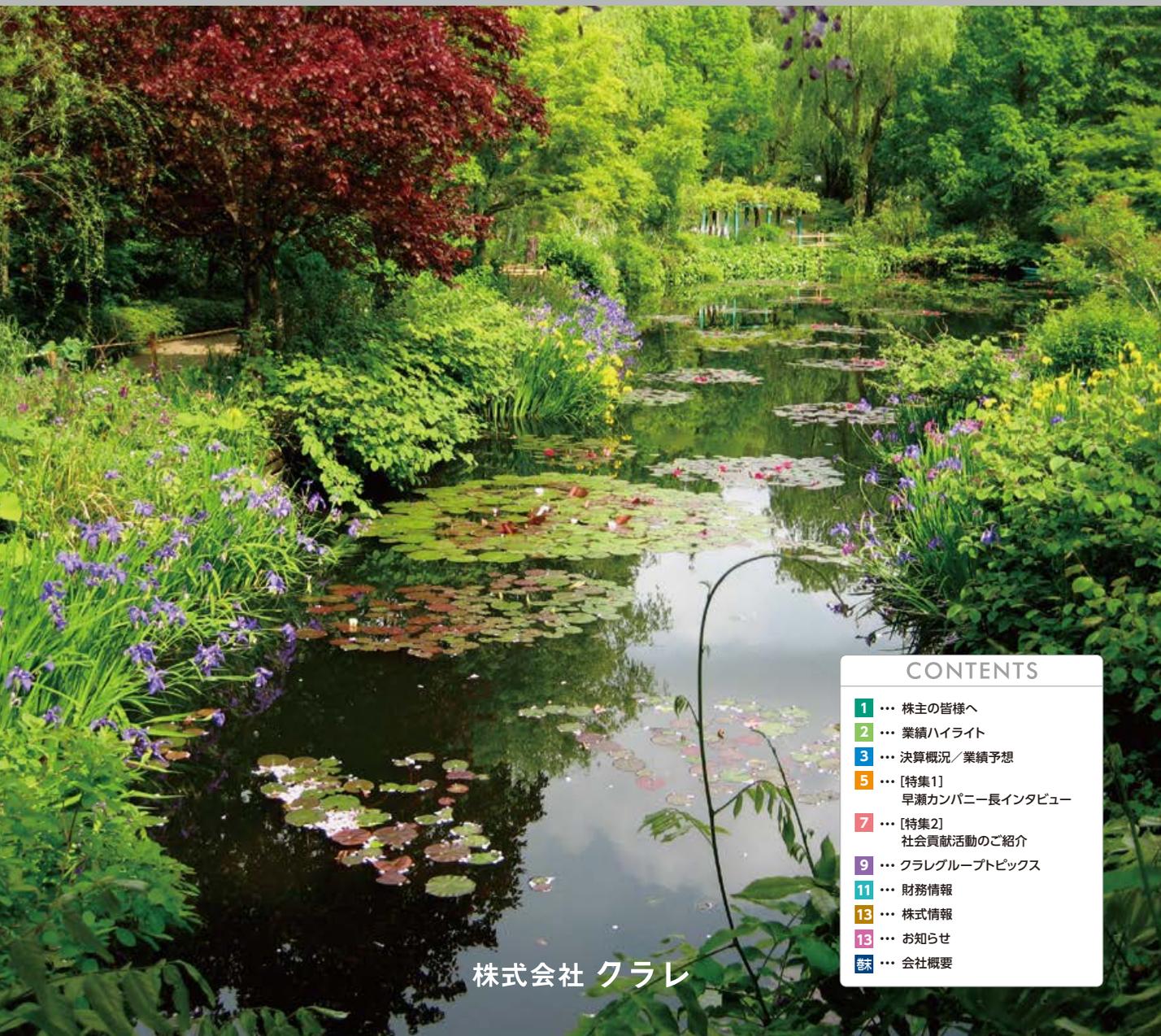


クラレ通信

第136期
2016年1—6月期 報告書
2016年1月1日～2016年6月30日



CONTENTS

- 1 ... 株主の皆様へ
- 2 ... 業績ハイライト
- 3 ... 決算概況 / 業績予想
- 5 ... 【特集1】
早瀬カンパニー長インタビュー
- 7 ... 【特集2】
社会貢献活動のご紹介
- 9 ... クラレグループトピックス
- 11 ... 財務情報
- 13 ... 株式情報
- 13 ... お知らせ
- 株 ... 会社概要

2016年度第2四半期について



代表取締役社長 伊藤 正明

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(2016年1月1日~2016年6月30日)における経営環境は、日本経済は個人消費の停滞に期初からの円高による企業収益の悪化なども加わり、景気回復のペースが鈍りました。世界経済は、米国は雇用面での懸念はあったものの順調に推移しました。欧州は緩やかな景気回復が続きました。期の終盤に英国が欧州連合からの離脱を選択したことを受けて為替相場や株式市場などに一時的な混乱が生じましたが、当第2四半期連結累計期間の業績には影響はありませんでした。中国経済及び新興国経済は景気減速が継続しました。

このような状況において、当社グループは「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」を実現すべく、2015年度よりスタートした中期経営計画「GS-STEP」において掲げた経営戦略を順次実行しています。

当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は前年同期比18,777百万円(7.1%)減の244,099百万円、営業利益は3,036百万円(9.6%)増の34,641百万円、経常利益は1,521百万円(4.7%)増の33,681百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,445百万円(6.9%)増の22,376百万円となりました。

2016年度通期の業績については、為替の円高進行の影響を考慮し、売上高を期初予想の5,400億円から5,000億円に修正いたします。利益につきましては、期初予想通り営業利益700億円、経常利益680億円、親会社株主に帰属する当期純利益400億円を見込んでいます。

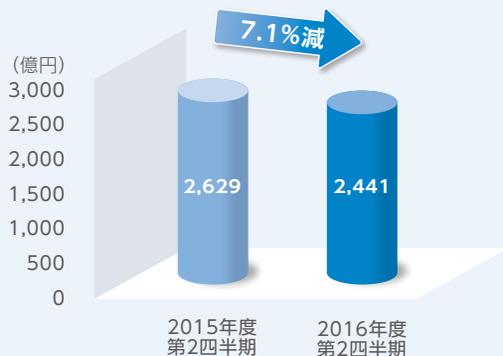
また、当社は株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題と位置付けています。2015年度から2017年度の中期経営計画「GS-STEP」期間中における株主の皆様に対する利益配分は、持続的な業績向上を通じた利益配分の増加を基本方針とし、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、且つ1株につき年間配当金36円以上としています。中間配当金は最初に公表いたしました通り1株当たり20円とさせていただきます。当期の年間配当金につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の予想値400億円を前提に、期初公表通り1株当たり40円(配当性向35.1%)とさせていただきます。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤 正明

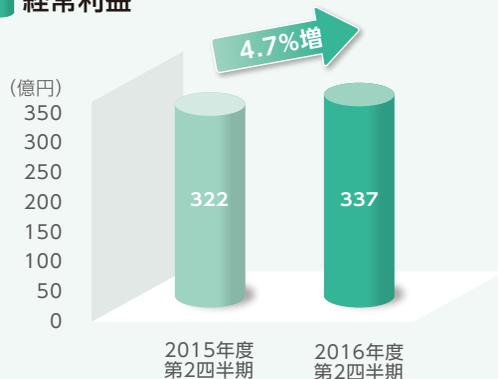
2016年度第2四半期業績ハイライト

売上高



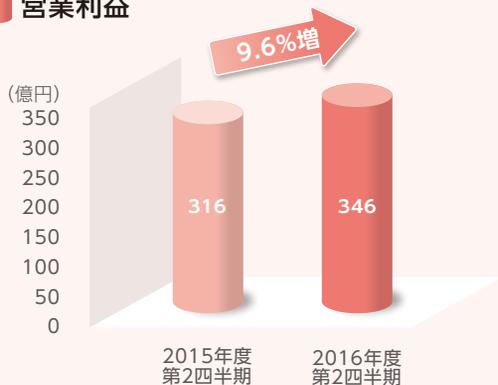
売上高は7.1%減の**2,441**億円になりました。

経常利益



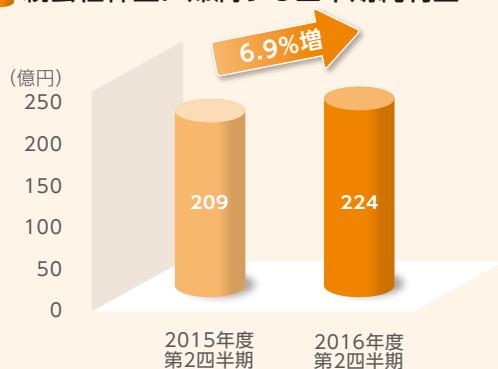
経常利益は4.7%増の**337**億円になりました。

営業利益



営業利益は9.6%増の**346**億円になりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益



親会社株主に帰属する四半期純利益は6.9%増の**224**億円になりました。

2016年度第2四半期決算概況

金額表示は、億円未満を四捨五入しております。

当社の2016年度第2四半期の業績は、売上高は為替の円高が進んだことに加え、原燃料価格の下落により販売価格の調整を行ったことから前年同期比減収となりましたが、利益は営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の全てで前年同期を上回りました。

また半期ベースで、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の全ての利益において過去最高を更新しました。

■ 決算概況

(億円)

| | 2016年度上期 | 2015年度上期 | 増減 | 期初予想 |
|----------------------|----------|----------|-------------|-------|
| 売上高 | 2,441 | 2,629 | △188(△7.1%) | 2,600 |
| 営業利益 | 346 | 316 | +30(+9.6%) | 320 |
| 経常利益 | 337 | 322 | +15(+4.7%) | 310 |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 224 | 209 | +14(+6.9%) | 190 |

各種前提

| | | | | |
|----------------|-----|-----|---|-----|
| 円/ドル | 112 | 120 | — | 120 |
| 円/ユーロ | 125 | 134 | — | 130 |
| 国産ナフサ価格(千円/kl) | 33 | 52 | — | 39 |

■ セグメント別売上高・営業利益

(億円)

| | 2016年度上期 | | 2015年度上期 | | 増減 | |
|------------|----------|------|----------|------|------|------|
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 |
| A ビニリアセテート | 1,286 | 294 | 1,384 | 265 | △98 | 29 |
| B イソプレン | 260 | 40 | 285 | 34 | △25 | 6 |
| C 機能材料 | 261 | 20 | 283 | 25 | △22 | △5 |
| D 繊維 | 239 | 30 | 238 | 21 | 1 | 9 |
| E トレーディング | 591 | 19 | 602 | 20 | △11 | △1 |
| F その他 | 309 | 9 | 336 | 13 | △27 | △4 |
| 調整額 | △504 | △66 | △499 | △62 | △5 | △4 |
| 合計 | 2,441 | 346 | 2,629 | 316 | △188 | 30 |

■ セグメント別の状況

A ビニリアセテート

ポバール樹脂は第2四半期連結会計期間に操業を開始した米国新プラントの償却費をカバーできませんでした。光学用ポバールフィルムは液晶パネルの生産調整の影響を受け、販売量が減少しました。水溶性ポバールフィルムは堅調に推移しました。PVBフィルムは中国の需要回復などにより好調に推移しました。EVOH樹脂(エパール)は、自動車ガンリタンク用途、食品包装用途ともに好調に推移しました。

B イソプレン

イソプレン関連では、ファインケミカル、熱可塑性エラストマー(セプトン)及び液状ゴムは高付加価値品へのシフトに加え一部用途で中国需要に回復の兆しが見え好調に推移しました。耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、自動車用途が拡大を続け、コネクタ用途に回復の兆しが見えました。一方で、LED反射板用途は引き続き中国の需要が戻りませんでした。

2016年度通期業績予想

通期の売上高予想について、為替の円高進行の影響を考慮し、以下のとおり修正することとします。

2016年度通期業績予想

(億円)

| | 今回予想 | 期初予想 | 増減 |
|---------------------|-------|-------|------|
| 売上高 | 5,000 | 5,400 | △400 |
| 営業利益 | 700 | 700 | — |
| 経常利益 | 680 | 680 | — |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 400 | 400 | — |

前提としている下期の平均為替は米ドル105円、ユーロ115円、国産ナフサは33千円/kgです。

2016年度セグメント別業績予想

(億円)

| | 売上高 | | | 営業利益 | | |
|----------|-------|-------|--------|------|-----|------|
| | 上期 | 下期 | 通期 | 上期 | 下期 | 通期 |
| ビニリアセテート | 1,286 | 1,314 | 2,600 | 294 | 316 | 610 |
| イソプレン | 260 | 260 | 520 | 40 | 35 | 75 |
| 機能材料 | 261 | 279 | 540 | 20 | 25 | 45 |
| 繊維 | 239 | 241 | 480 | 30 | 20 | 50 |
| トレーディング | 591 | 619 | 1,210 | 19 | 21 | 40 |
| その他 | 309 | 351 | 660 | 9 | 11 | 20 |
| 調整額 | △504 | △506 | △1,010 | △66 | △74 | △140 |
| 合計 | 2,441 | 2,559 | 5,000 | 346 | 354 | 700 |

2016年度配当金について

40円/株 予定 (中間：20円、期末：20円)

配当性向：35.1%

「GS-STEP」期間中の
利益配分

- 総還元性向：35%以上
- 1株当たり配当金：36円以上

C 機能材料

メタクリルは、市況悪化によりモノマー及び一部樹脂用途で値下げを余儀なくされました。メディカルは、歯科材料が新製品の拡充に加え、販売面で事業統合によるシナジー効果が増大し順調に推移しました。人工皮革(クラリーノ)は、既存プロセス品ならびに新プロセス品ともに堅調に推移しました。

D 繊維

好調なビニロンに加え生活資材も堅調に推移しました。

E トレーディング

化学品関連事業は中国需要の減速影響を、繊維関連事業は一部用途で低調な国内需要の影響を受けました。

F その他

その他事業は、第1四半期連結会計期間にエネルギー材料事業が加わったことにより開発費が増加しました。

ポバール樹脂事業の世界戦略 ~北米新プラント稼働



取締役・専務執行役員
 ビニルアセテート樹脂カンパニー長
 ビニルアセテートフィルムカンパニー長 **早瀬 博章**

Q1 ポバール樹脂の主な用途を教えてください。

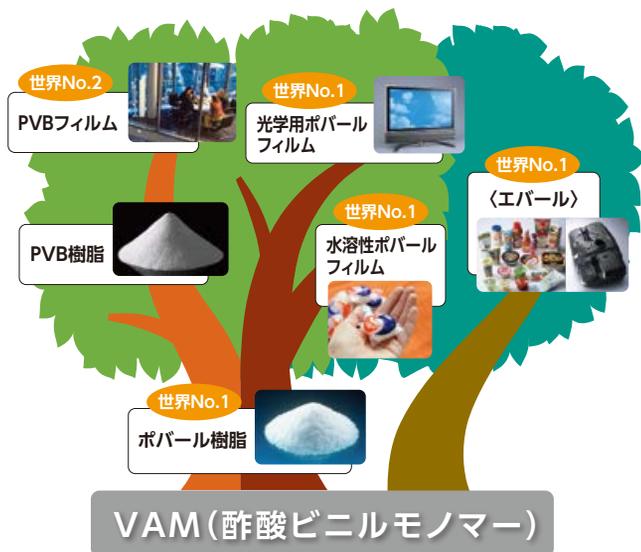
ポバール樹脂は、ビニロン繊維の原料として、クラレが世界に先駆けて工業化した機能性樹脂です。ポバール樹脂は水に溶けるというユニークな性質を持つほか、造膜性、接着性、乳化性、耐油性、耐薬品性などに優れています。当初は全量をビニロン向けに自家消費していましたが、繊維糊剤、紙加工剤等での需要の伸びが見込まれることから、1958年から本格的にポバール樹脂の市販を開始しました。

現在は伝統用途である繊維加工剤、紙加工剤等に加えて、接着剤、塩化ビニルの重合安定剤など幅広い用途で使用されています。また自社製品の原料用途としては、ビニロンや光学用ポバールフィルム、水溶性ポバールフィルムがあります。また、自動車のフロントガラスなどに使用される合わせガラス用中間膜の原料となるPVB樹脂もポバール樹脂から作ります。そういった意味でもポバール樹脂は、当社のコア事業であるビニルアセテート事業の要となる樹脂です。

Q2 ポバール事業のグローバル化の歴史を教えてください。

1990年代までは、岡山事業所および新潟事業所の両国内生産拠点の増強で拡大する需要に対応していましたが、1999年に海外での事業拡大および国際的な競争力強化を目的にシンガポールで生産を開始しました。2001年にはドイツのクラリアント社のポバール関連事業を買収し、ドイツに生産拠点を保有しました。米国にプラントを保有することは悲願でしたので、2012年に米国でのプラントの新設を決定し、着工しました。その後、2014年の米国デュボン社のビニルアセテート関連事業(GLS事業)の買収により、米国に生産拠点を入手しました。ここに米国新プラントが加わり、北米および中南米市場で一気に事業を拡大する体制が整いました。

《ビニルアセテートの^{かなめ}要:ポバール樹脂》



により世界4極6拠点での生産体制を確立～

Q3 米国新プラントについて教えてください。

悲願の米国新プラントですが、本年4月21日に竣工式を開催しました。米国テキサス州ハリス郡関係者、ラポルテ市長、在ヒューストン日本国総領事やお客様など総勢約120名の皆様にご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。竣工式では、日本らしさを演出するため鏡開きなどを実施しました。



米国ポバール新工場



竣工式での鏡開き(左から4人目が伊藤社長、右端がクラレアメリカAvdey社長)

米国新プラントは、生産能力が40,000トン/年で、GLS事業買収により入手したポバール樹脂の原料VAM(酢酸ビニルモノマー)からの一貫生産が可能なおとに加え、シェールガス等による安価な原料メリットを享受できるコスト競争力の高いプラントです。また従来のポバール樹脂に比べ、皮膜耐水性、水溶液の粘度安定性、生分解性に優れた差別化製品である<エクセバール>の生産能力も有しています。

昨年7月にGLS事業統合を完了し、この米国新プラントと旧GLS事業のポバール樹脂<エルバノール>プラントを一体運営しています。この一体運営によりポバール樹脂の銘柄拡充や販路拡大といった事業統合シナジー効果を最大限発揮し、北米および中南米市場での事業拡大を図ります。またモノソル社との水溶性ポバールフィルムの共同開発体制の一層の強化を図り、水溶性ポバールフィルムの事業拡大にもつなげます。

Q4 ポバール事業の世界戦略について教えてください。

今回の米国新プラント稼働により生産能力は、国内は岡山事業所の96,000トン/年と新潟事業所の28,000トン/年を合わせて124,000トン/年、シンガポールは40,000トン/年、ドイツは94,000トン/年、米国は旧GLS事業の63,000トン/年と新プラント40,000トン/年の合計で103,000トン/年で、グローバル合計で361,000トン/年となりました。この世界4極6拠点での最適生産体制を構築し、高品質な製品をグローバルに安定供給することが基本となります。その上で、各プラントの特徴を生かした差別化戦略を推進し、高付加価値・高機能用途比率の向上を図ります。さらに生産・開発・販売の各職能においてグローバルで一体化したチーム体制での運営を強化し、ソリューション・プロバイダーとして、これまで以上に顧客やマーケットのニーズを先取りした製品やサービスを提供していきます。ポバール樹脂の世界需要は今後も成長が続くと予想されています。これらの戦略を着実に実行することで、事業拡大を図るとともに事業基盤のより一層の強化を図り、グローバルNo.1メーカーとしての地位をさらに盤石なものとしします。



子どもたちに化学の不思議や楽しさを伝える「夢・化学-21」



当社ブースの様子

クラレグループ社会貢献活動方針

クラレグループは、社会の一員としての責任を果たすため、以下の方針に基づき、社会貢献活動に積極的に取り組みます。

■ 活動のあり方

- 社会的な課題の解決につながる活動
- 国内外の事業拠点の地域社会に根ざした活動
- 社員の主体的参加を重視した活動
- 長期的に持続可能な活動

■ 活動の領域

- 「文化」「学術」「環境」「福祉」を重点領域とする

今年も8月6日・7日に科学技術館（東京都千代田区）で開催された「夢・化学-21 夏休み子ども化学実験ショー」に出展しました。「夢・化学-21 夏休み子ども化学実験ショー」は公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会の4団体で構成される「夢・化学-21」委員会が主催する小学生が化学実験を体験できるイベントで、当社は2002年から15年連続で出展しています。15回目となる今年は、「芳香剤を作ってみよう」をテーマに、高吸水性樹脂を使用した芳香剤作りのブースを出展し、つくば研究センターをはじめとする社員ボランティアが子どもたちの実験を手伝いました。今年も親子連れを中心に、2日間で約5,000名が来場されました。そのうち当社ブースには約1,200名が訪れ、大盛況のうちに終えることができました。

当社では、クラレグループ社会貢献活動方針に則り、子どもたちに化学実験を体験してもらい、化学の楽しさを知ってもらう社会貢献活動を行っています。本イベントへの出展のほか、全国5か所の事業所（倉敷、西条、岡山、新潟、鹿島）で、小学校中～高学年を対象とした化学の実験教室「少年少女化学教室」を開催しています。1992年にスタートした「少年少女化学教室」は、これまで合計245回開催し、延べ7,859名（2015年12月末現在）の子どもたちが参加しています。

子どもたちの「理科離れ」を防ぐため、また地域社会への貢献を推進するため、化学の不思議や楽しさを伝えるこれらの活動を、今後とも継続的に行っていきます。

夏休み子ども化学実験ショー」に15年連続で出展

アメリカでも

今年2月にヒューストン自然科学ミュージアムで開催された理科や数学の楽しさを伝える女の子向けのイベントに、クラレアメリカが昨年に引き続き出展しました。ブースではクラレアメリカの社員ボランティアがモノソルの水溶性ポパールフィルムの水溶性を検証する実験を行ったり、女の子たちが熱可塑性エラストマー(ハイブラー)の高い制振性能を体感できる実験をしました。

クラレアメリカは本イベントへの参加以外にも、高校生を対象とした工場見学なども開催しており、地域社会に貢献できるよう活動の幅を広げています。



クラレアメリカのブースの様子

ドイツでも

クラレヨーロッパでは、若い科学者の育成や地域社会への貢献などを目的に、フランクフルト市のハイスクールであるフライヘル・フォン・スタイン・スクールと2013年から連携しています。同校のサイエンスデーでのクラレヨーロッパ社員による講演、同校生徒を対象とした工場見学、同校の化学専攻の生徒を対象とした工場内の研究室での実地演習など取り組みを拡大し、新たな連携モデルを構築しています。



クラレヨーロッパで今年6月に開催した研究室での実地演習に参加したフライヘル・フォン・スタイン・スクールの生徒たち

2016年1-6月のクラレグループの主なニュース

クラレグループが第46回「織研合織賞」でダブル受賞

当社とクラレトレーディング株式会社は、第46回「織研合織賞」において《特別賞》と《テクニカル部門》を受賞し、3月14日にロイヤルパークホテルで贈呈を受けました。

本賞は、織研新聞社が主催し、繊維業界の優れた素材、技術開発、マーケティング活動などに贈られるもので、今回で46回目となります。当社は昨年販売50周年を迎えた人工皮革〈クラリーノ〉、クラレトレーディングは酢酸ビニル系素材について、それぞれ独自技術を生かした開発と販売が高く評価され、ダブルでの受賞となりました。

織研合織賞《特別賞》

クラレ:〈クラリーノ〉50周年

当社が世界に先駆けて開発し、幅広い分野で採用されている人工皮革〈クラリーノ〉は、2015年に販売50周年を迎えました。そして「Re-Create[リ・クリエイト]」を合言葉に、さらなる市場拡大を目指しています。その長年にわたる開発と販売が高く評価されました。

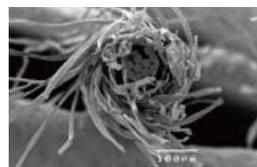


〈クラリーノ〉

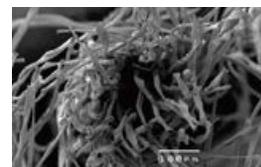
織研合織賞《テクニカル部門》

クラレトレーディング:酢酸ビニル系素材

当社の酢酸ビニル系素材は、独自技術を生かして進化を遂げられました。長年にわたり様々な素材を開発し、販売してきたことが高く評価されました。



〈ミントボール〉溶解前



〈ミントボール〉溶解後

〈ミントボール〉とは

酢酸ビニル系を代表する素材で、熱水で溶けてなくなる水溶性長繊維です。残った糸と糸の間に隙間ができるため、テキスタイルの製造過程の補助材として使われます。一般的な水溶性短繊維に比べて排水処理の負担を軽減でき、環境対策に力を入れる海外市場での需要が増えています。

2016年 1月

2月

3月

クラレアメリカ ポパール樹脂新プラント稼働

米国現地法人クラレアメリカにおいてポパール樹脂新プラントが完成し、4月21日に竣工式を開催しました。この新プラントの稼働により、クラレアメリカの生産拠点数は6拠点(うち4拠点はテキサス州)となりました。クラレアメリカはこの6つの生産拠点で、VAM(酢酸ビニルモノマー)、ポパール樹脂、PVB樹脂、PVBフィルム、EVOH樹脂〈エパール〉および熱可塑性エラストマー〈セプトン〉などを生産しています。クラレアメリカはシェールガスによる原燃料メリットによるコスト競争力などを武器に、今後とも高品質な製品を安定的に供給していきます。

クラレアメリカの生産拠点



をご紹介します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

モノソル新工場の竣工式を開催

4月19日、米国現地法人モノソルの米国第3工場の完成を記念して竣工式を開催しました。当日はインディアナ州知事、ポーター市市長、在シカゴ日本国総領事をはじめ多くの来賓をお迎えし、総勢約250名が新工場のフロアを埋め尽くす盛大な式典となりました。今回の新設は、個包装洗剤などに使用される水溶性ポバールフィルムの需要拡大に対応するもので、生産能力が約15%拡大します。新工場は高効率な最新型の製造ラインを武器に、優れた品質の水溶性ポバールフィルムを世界に届けます。



モノソル米国新工場



竣工式でスピーチをする伊藤社長

EVOH樹脂〈エパール〉生産能力の増強を決定

当社は、EVOH樹脂〈エパール〉の生産能力の増強を決定いたしました。〈エパール〉の需要は日米欧をはじめとする先進諸国が中心でしたが、新興諸国でも需要が伸張しており、安定供給体制を維持するために、生産能力の増強が必要と判断しました。昨年の欧州での能力増強に続く今回の米国現地法人クラレアメリカでの増強により、EVOH樹脂およびバリア材料のリーディングカンパニーとしてさらなる事業拡大を目指します。

〈エパール〉の生産能力(トン/年)

| | 現状 | 建設中(注1) | 今回決定(注2) | 増強後 |
|----|--------|---------|----------|---------|
| 日本 | 10,000 | | | 10,000 |
| 米国 | 47,000 | | 11,000 | 58,000 |
| 欧州 | 24,000 | 11,000 | | 35,000 |
| 合計 | 81,000 | 11,000 | 11,000 | 103,000 |

(注1)2016年末稼働開始予定 (注2)2018年央稼働開始予定

4月

5月

6月



山形・クラレ蔵王ジャンツェのサマーヒル化記念開場式

当社がネーミングライツパートナーになっている山形市の蔵王ジャンプ台クラレ蔵王ジャンツェは、これまで冬場限定のジャンプ台でしたが、夏場も競技ができるよう整備され、6月5日にサマーヒル化を記念する開場式が行われました。開場式には山形市長をはじめ約200名が出席し、テープカットの後に当社所属の女子スキージャンプの高梨沙羅選手と山形県ゆかりのジャンパー6名がオープニングジャンプを披露し、花を添えました。

当社は、高梨選手をはじめとする国内外スキージャンプ選手の競技力向上において、ネーミングライツパートナーとして良好な練習・試合環境の提供を通じて貢献していきます。



開場式でのジャンプを終えた高梨選手(左から3人目)と山形県ゆかりのジャンパー

2016年度第2四半期

■ 連結損益計算書の要約

(単位:億円)

| 科目 | 第2四半期*1 | 前第2四半期*2 | 増減 |
|---------------------|--------------|----------|-------|
| 売上高 | 2,441 | 2,629 | △ 188 |
| 売上原価 | 1,599 | 1,815 | △ 216 |
| 売上総利益 | 842 | 813 | 28 |
| 販売費及び一般管理費 | 495 | 497 | △ 2 |
| 営業利益 | 346 | 316 | 30 |
| 営業外収益 | 31 | 30 | 1 |
| 営業外費用 | 41 | 25 | 16 |
| 経常利益 | 337 | 322 | 15 |
| 特別利益 | — | 3 | △ 3 |
| 特別損失 | — | 3 | △ 3 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 337 | 321 | 16 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 100 | 108 | △ 8 |
| 法人税等調整額 | 8 | △ 0 | 9 |
| 四半期純利益 | 228 | 213 | 16 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 5 | 3 | 1 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 224 | 209 | 14 |

*1: 2016年1月1日～2016年6月30日 *2: 2015年1月1日～2015年6月30日

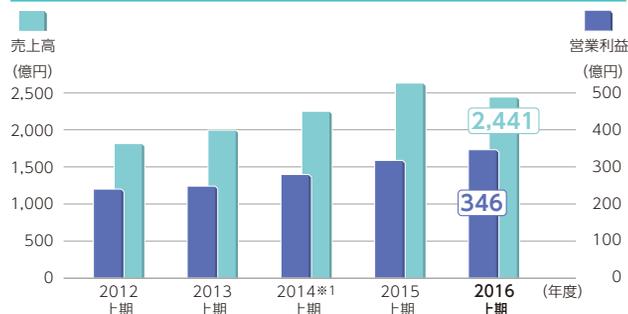
■ 連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

| 資産の部 | 第2四半期*1 | 前期*2 | 増減 |
|-----------------|--------------|-------|-------|
| 流動資産 | 2,864 | 2,965 | △ 101 |
| 現金及び預金 | 371 | 370 | 1 |
| 受取手形及び売掛金 | 990 | 1,021 | △ 30 |
| 有価証券 | 230 | 188 | 42 |
| 棚卸資産 | 1,057 | 1,122 | △ 65 |
| 繰延税金資産 | 68 | 76 | △ 8 |
| その他 | 152 | 194 | △ 42 |
| 貸倒引当金 | △ 4 | △ 6 | 2 |
| 固定資産 | 3,738 | 4,053 | △ 315 |
| 有形固定資産 | 2,499 | 2,620 | △ 122 |
| 建物及び構築物 | 530 | 540 | △ 10 |
| 機械装置及び運搬具 | 1,456 | 1,280 | 176 |
| 建設仮勘定 | 283 | 566 | △ 284 |
| その他 | 230 | 235 | △ 4 |
| 無形固定資産 | 722 | 840 | △ 118 |
| 投資その他の資産 | 517 | 593 | △ 76 |
| 投資有価証券 | 378 | 461 | △ 83 |
| その他 | 139 | 133 | 7 |
| 貸倒引当金 | △ 0 | △ 1 | 0 |
| 資産合計 | 6,602 | 7,018 | △ 416 |

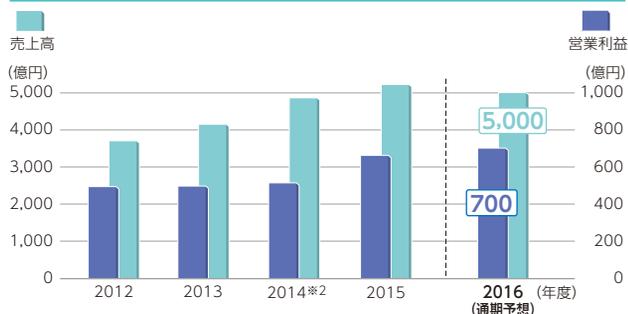
*1: 2016年6月30日現在 *2: 2015年12月31日現在

■ 上期売上高・営業利益



※1 当社は2014年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。比較のため、2014年上期は2014年1月～6月に補正した数値を示しております。
 ※2 2014年度通期は2014年1月～12月の12か月に補正した数値を示しております。

■ 通期売上高・営業利益



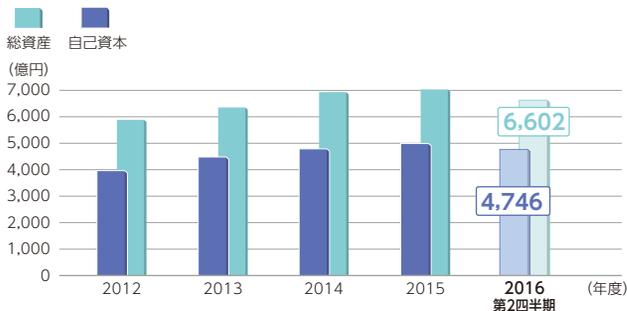
※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

(単位:億円)

| 負債の部 | 第2四半期*1 | 前期*2 | 増減 |
|--------------------|--------------|-------|-------|
| 流動負債 | 801 | 955 | △ 153 |
| 支払手形及び買掛金 | 315 | 383 | △ 69 |
| 短期借入金 | 80 | 72 | 8 |
| その他 | 406 | 499 | △ 93 |
| 固定負債 | 978 | 1,027 | △ 50 |
| 社債 | 100 | 100 | — |
| 長期借入金 | 422 | 423 | △ 0 |
| その他 | 455 | 505 | △ 49 |
| 負債合計 | 1,779 | 1,982 | △ 203 |
| 純資産の部 | 第2四半期*1 | 前期*2 | 増減 |
| 株主資本 | 4,653 | 4,507 | 146 |
| 資本金 | 890 | 890 | — |
| 資本剰余金 | 872 | 871 | 0 |
| 利益剰余金 | 2,933 | 2,789 | 144 |
| 自己株式 | △ 41 | △ 43 | 2 |
| その他の包括利益累計額 | 94 | 454 | △ 360 |
| その他有価証券評価差額金 | 72 | 108 | △ 36 |
| 繰延ヘッジ損益 | 0 | △ 0 | 0 |
| 為替換算調整勘定 | 65 | 394 | △ 329 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △ 43 | △ 48 | 5 |
| 新株予約権 | 8 | 8 | △ 1 |
| 非支配株主持分 | 70 | 67 | 3 |
| 純資産合計 | 4,823 | 5,036 | △ 212 |
| 負債及び純資産合計 | 6,602 | 7,018 | △ 416 |

*1：2016年6月30日現在 *2：2015年12月31日現在

■ 総資産・自己資本

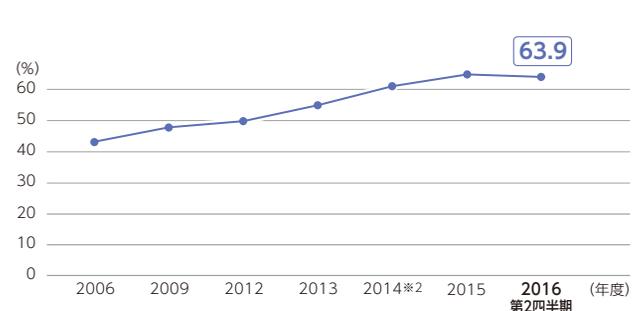


■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要約 (単位:億円)

| 科目 | 第2四半期*1 | 前第2四半期*2 |
|--------------------------------|--------------|----------|
| 1. 営業活動によるキャッシュ・フロー | 398 | 467 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 337 | 321 |
| 減価償却費 | 200 | 216 |
| 法人税等の支払額又は還付額 (△は支払) | △ 110 | 10 |
| その他営業活動による支出 | △ 29 | △ 80 |
| 2. 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 254 | △ 255 |
| 有形及び無形固定資産の取得による支出 | △ 244 | △ 212 |
| 株式買収及び事業買収・譲渡による収支 | — | △ 45 |
| その他投資活動による収支 | △ 10 | 3 |
| 3. 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 72 | △ 179 |
| 借入金の純増減額 | 9 | △ 150 |
| 配当金の支払額 | △ 77 | △ 32 |
| その他財務活動による収支 | △ 4 | 2 |
| 4. 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 32 | △ 3 |
| 5. 現金及び現金同等物の増減額 | 41 | 30 |
| 6. 現金及び現金同等物の期首残高 | 548 | 354 |
| 7. 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 2 | — |
| 8. 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 591 | 384 |

*1：2016年1月1日～2016年6月30日 *2：2015年1月1日～2015年6月30日

■ 海外売上高比率推移

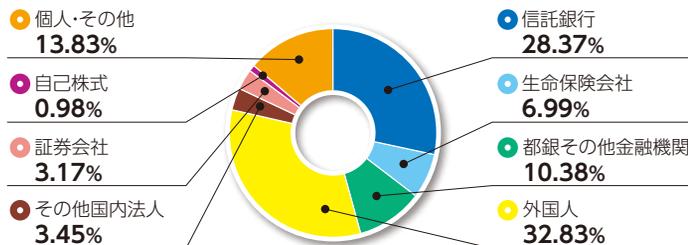


株式情報について

株式の状況

| | | |
|------------------------------------|----------------------------------|------------------------|
| 発行可能株式総数 1,000,000,000 株 | 発行済株式の総数 354,863,603 株 | 株主数 49,768 名 |
|------------------------------------|----------------------------------|------------------------|

株主構成



当社株価と主要指標との比較 (2008年12月～2016年6月)

2008年12月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時～17時)

「くらしき研究センター見学会」 「大原美術館イブニングツア

くらしき研究センターは、当社創業の地である倉敷市の町並みを一望する丘陵地帯にあります。当研究センターでは高分子合成技術、有機合成技術などを基盤に電気・電子分野やライフサイエンス分野での新事業の芽を生み出し、育て上げていくための研究開発を行っています。大原美術館は、当社初代社長の原孫三郎が社会貢献活動の一環として1930年に設立し、2代目社長の原総一郎が運営を引き継いだ日本最初の西洋美術館です。現在は西洋美術品のほか日本の近現代作品も多く所蔵されており、わが国を代表する美術館として多くの愛好家や地域の皆様に親しまれています。このたび、株主様に当社をよりご理解いただくことを目的にくらしき研究センターの見学会および大原美術館の休館日に作品を鑑賞するイブニングツアー(オプション)を開催します。くらしき研究センターのご見学のみでもご応募いただけます。ご希望の方は、Webアンケートまたは添付のアンケートはがきの所定欄へご記入の上、ご送付ください。なお募集人数は50名様(株主様限定)です。ご応募多数の場合は抽選とさせていただきますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

●日時

2016年11月14日(月)

- 13:30～17:00 (くらしき研究センター見学会のみご参加)
- 13:30～19:00 (くらしき研究センター見学会・大原美術館イブニングツアーともにご参加)

●ご集合場所・時間

JR倉敷駅 北口 13:30 (送迎バスをご用意します。)

- ご集合場所までの交通費は株主様のご負担とさせていただきます。
- やむを得ない事情により、時間の変更、あるいは中止になることもありますので、あらかじめご了承願います。

●募集人数

50名様(株主様限定)

●お申込み締切

インターネットでのアンケートをご利用の株主様は**2016年9月20日(火)までの**アンケートご回答入力、アンケートはがきをご利用の株主様は**2016年9月20日(火)消印をもって**締切とさせていただきます。ご応募多数の場合は抽選とさせていただきますので、あらかじめご了承願います。ご当選された株主様には当日の詳細を別途ご案内いたします。

学会のご案内

●場所

株式会社クラレ 暮らし研究センター
〒710-0801 岡山県倉敷市酒津2045-1



大原美術館

〒710-8575 岡山県倉敷市中央1-1-15



ご不明な点がございましたら下記まで
ご連絡をお願いいたします。
株式会社クラレ IR・広報部 担当:友添
TEL:03-6701-1075

アンケートご協力のお願い

「クラレ通信」をご覧いただきまして、ありがとうございます。
今後とも株主の皆様との双方向のコミュニケーションを図って
いきたいと思っております。

つきましては、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。
なお、プレゼントをスピーディーにお届けするため、アンケートの回答を
原則Web経由とさせていただきます。将来的にWebのみの受
付に集約することを考えておりますので、パソコンから以下アンケート
サイトにアクセスの上、是非ご利用くださいますようお願いいたします。

2016年9月30日(金)まで

ご回答いただいた方
には、もれなく下記の
**2点をセットで
プレゼント**
いたします。

かんたん結束システム(マジックバンド) ストラップタイプ4色アソートセット

繰り返し使えて、取扱いも簡単な環境
に優しい結束システム(マジックバンド)
ストラップタイプの4色
アソートセットです。



袋のまま密封保存に便利なスライド式 スティックジッパー(エニーロック)3本セット

〈エニーロック〉は開封した
袋に差し込むだけで、美味し
さもニオイも逃がさずに簡
単に密封できるスライド式
スティックジッパーです。



アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo! JAPAN®やGoogle®
などの検索エンジンから
アンケートサイトを呼び出します。

株主ひろば **検索**

または、下記URLを入力ください。

kabuhiro.jp

ご回答方法



アンケートナンバー

●●●●●●●●

アンケート画面へ進む

アンケートサイト画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー
●●●●●●●●を入力の上、回答画面にお進みください。
事前に同封の配当金計算書・配当金領収証をお手元にご準備ください。

操作方法などの問い合わせ先

株式会社クラレ IR・広報部
電話：03-6701-1075

平日 9:00-12:00/13:00-17:30 土日祝 休み

* インターネットをご利用できない場合は、添付のアンケートはがきによる
ご回答も受け付けいたします。なお、はがきによるご回答の場合、プレゼント
の発送が遅れる場合がございます。予めご了承ください。

株主ひろば

このアンケートは、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム
「株主ひろば」を利用して実施しています。

クラレは世界的な社会的責任投資(SRI)株式指数の構成銘柄に選定されています。

会社概要

- 社名 株式会社 クラレ
- 英文社名 KURARAY CO., LTD.
- 設立 1926(大正15)年6月24日
- 資本金 890億円(2016年6月30日現在)
- 東京本社 〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3
大手センタービル
TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
- 大阪本社 〒530-8611 大阪市北区角田町8-1
梅田阪急ビル オフィスタワー
TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
- ホームページ <http://www.kuraray.co.jp>

クラレグループの主な事業

| | |
|----------|--|
| ビニリアセテート | ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売 |
| インプレネ | インプレネ系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売 |
| 機能材料 | メタクリル樹脂、メディカル関連製品、人工皮革の製造・販売 |
| 繊維 | ビニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売 |
| トレーディング | 繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売 |
| その他 | 炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業 |

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の()をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

役員 (2016年6月30日現在)

| | |
|--------------|---------------------------------------|
| 代表取締役会長 | 伊藤 文大 |
| 代表取締役社長 | 伊藤 正明 |
| 代表取締役・専務執行役員 | 松山 貞秋 |
| 取締役・専務執行役員 | 久川 和彦 |
| 取締役・専務執行役員 | 早瀬 博章 |
| 取締役・常務執行役員 | 古宮 行淳 |
| 取締役・常務執行役員 | 中山 和夫 |
| 取締役・常務執行役員 | 阿部 憲一 |
| 取締役・常務執行役員 | 佐野 義正 |
| 取締役・常務執行役員 | 豊浦 仁 |
| 取締役(社外取締役) | 浜口 友一 |
| 取締役(社外取締役) | 浜野 潤 |
| 常勤監査役 | 村上 敬司 |
| 常勤監査役 | 雪吉 邦夫 |
| 監査役(社外監査役) | 藤本 美枝 |
| 監査役(社外監査役) | 岡本 吉光 |
| 監査役(社外監査役) | 名倉 三喜男 |
| 執行役員 | マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler) |
| 執行役員 | ジョージ アブディ (George Avdey) |
| 執行役員 | 山根 幸則 |
| 執行役員 | 大村 章 |
| 執行役員 | 柏村 次史 |
| 執行役員 | 中島 多加志 |
| 執行役員 | 林 洋秀 |
| 執行役員 | P. スコット ベニング (P. Scott Bening) |
| 執行役員 | ステファン コックス (Stephen Cox) |
| 執行役員 | 津軽 利紀 |
| 執行役員 | 高野 浩一 |
| 執行役員 | 高井 信彦 |
| 執行役員 | 尾松 俊宏 |
| 執行役員 | 川原 仁 |
| 執行役員 | 鈴木 一 |
| 執行役員 | 中村 育雄 |

【表紙の写真について】 当社グループ社員が撮影した写真を表紙に使用しています。

所 属：クラレクラフレックス株式会社
名 前：清岡 純人
タイトル：思わず…
撮影場所：高知県安芸郡「北川村モネの庭マルモッタン」

撮影者のコメント：どこかで見たことのある風景では？『睡蓮』の絵画で知られるクロード・モネ。そのモネの愛した庭として有名なフランス、ジヴェルニーにある「モネの庭」を再現した庭園で撮影。写真には興味はない私ですが、綺麗さに惹かれ思わずシャッターを。